

天下溝（了徳寺池任溝）の管理主体

The Responsibility for Maintenance of Tenkamizo(Collecting Canal of the Ryotokuji Pond)

大西亮一*

OHNISHI Ryouichi

1. はじめに

兵庫県加西市馬渡谷町は天下溝と呼ばれる了徳寺池の任溝(間接流域からの集水路)約2Kmが人家や農地よりも標高が高い周辺の山裾を通っている。天下溝の堤防が決壊すると馬渡谷町が洪水になるため維持管理が不可欠であるが、建設以来約270年間維持管理してきた受益者の兵庫県加東市高岡町が平成10年3月から行わないので、馬渡谷町が代わりに行うのは、受益農地がなく、規模の大きいため、災害復旧や維持管理の経費や労力がたいへん重荷になっている。このため、馬渡谷町は加西市による維持管理を申請し、筆者に支援を依頼した。本文は天下溝(了徳寺池任溝)の管理主体について調査したので報告する。

2. 天下溝の概要と研究目的

了徳寺池は加古川中流域右岸に位置し、青野原新田(現加東市高岡町)の主水源として、享保年間(1720年代)に建設された。貯水容量は約15万 m^3 と大きく、図1の赤斜線で示すように直接流域が約14ha、間接流域が約163haである。間接流域から集水する約4.4Kmの水路を天下溝(了徳寺池任溝)と呼ぶ。この他に、野上町の普光寺川から大雨時に取水して高岡町の東・西平池へ田植えまで貯水する導水路と了徳寺池から導水路までの用水路がある。これら3水路の総称を天下溝と呼び、全長は約14Kmである。研究目的は天下溝の中で高岡町が維持管理しない馬渡谷町の約2kmについて管理主体を明らかにすることである。

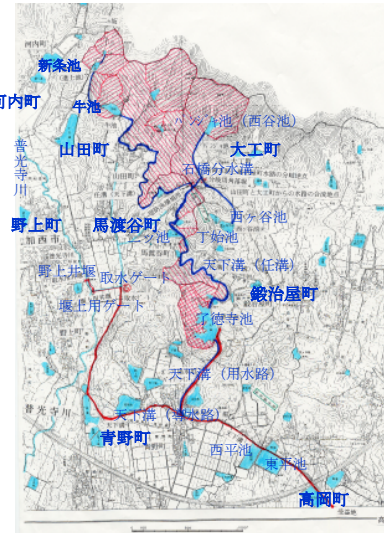


図1 了徳寺池及び天下溝

3. 研究課題

馬渡谷町の天下溝(了徳寺池任溝)は図1のように了徳寺池の間接流域から降雨流出水を集めるため、豪雨になると堤防が決壊する。しかし、この水路は余水吐や放水工がなかった放置できないという問題があった。また、了徳寺池の受益地は高岡町の水田約120haと言われ、馬渡谷町は水田約10haのため池を維持管理するついでに行える規模ではない。このため、馬渡谷町の要望に基づいて加西市は尽力され、高岡町の申請によって県営かんがい排水事業「天下溝地区」が実現し、放水工の設置等の改修工事が進められた。この結果洪水の危険性が少なくなったと喜ばれている。しかし、馬渡谷町に約1kmの未改修区間が残るため、維持管理がまだ必要である。このため、研究課題として資料の整理が必要である。

*個人 individual

4. 天下溝（了徳寺池任溝）の所有

了徳寺池は高岡町の所有と聞いている。このため、建設の経緯から天下溝（了徳寺池任溝）は了徳寺池の付帯施設として高岡町の所有と考えられるが、登記簿の示頭図は1部が青線（水路）で、国の所有（国有地）になっている。このため、高岡町が水利権を放棄すると管理主体は国になると考え、加西市による維持管理を申請した。また、天下溝の未改修区間に、放水工を設置を要望したが、下流の鍛冶屋町が「天下溝（了徳寺池任溝）から放流されると洪水が酷くなる。」として同意しないため、放置できないという問題が残っている。

5. 用水路の不用処理

建設省河川局水政課水利調整室の「水利権実務一問一答」によれば、「水源の変更によって不用になった水利施設は当該水利権者が除却する。」となっているので、高岡町は天下溝（了徳寺池任溝）の水利権を放棄すると天下溝（了徳寺池任溝）を除却する必要がある。

一方、大橋によれば、三田用水訴訟事件がある。三田用水普通水利組合は解散直前に国および東京都を相手に河川敷にある三田用水路敷きついて、訴訟し所有権が認められた。このため、三田用水普通水利組合は売却して国庫に引き継ぎ、三田用水路跡地は排水路として、東京都が維持管理している。天下溝（了徳寺池任溝）は高岡町が所有権を主張しないので、東京都の例にならって、加西市か、兵庫県に維持管理をお願いする必要がある。

6. 土地改良施設の管理主体

天下溝（了徳寺池任溝）は了徳寺池の付帯施設なので、農村振興局長通達の「土地改良施設の管理主体の選定指針について」によって、高岡町が管理主体となる。また、県営かんがい排水事業「天下溝地区」は高岡町の申請によって実施されている。

7. 農地・水・環境保全向上対策

農地及び農業水利施設は多面的機能の発揮するため、農地・水・環境保全向上対策によって天下溝の維持管理も支援している。この制度では補助金の額を農地面積で積算するため、藤井によれば、天下溝の維持管理に対する補助金は受益地の高岡町に支払われている。このため、馬渡谷町の天下溝（了徳寺池任溝）は高岡町が維持管理をしなければならぬことになる。言い換えると、原田によれば、馬渡谷町は天下溝（了徳寺池任溝）維持管理を高岡町が放棄したためたいへん困り、ため池等の維持管理を受益者が放棄すると地元がたいへん迷惑するという事例となり、農地・水・環境保全向上対策の予算要求資料になったが、天下溝（了徳寺池任溝）に対しては、馬渡谷町がこの制度の恩恵は受けない。このため、この制度は複数の集落あるいは複数の市町村にまたがる農業水利施設の維持管理を支援する制度ではないと言える。

8. まとめ

天下溝（了徳寺池任溝）は維持管理して降雨流出水が了徳寺池に集まり、高岡町が利用すれば、加古川下流域に洪水軽減機能と水資源涵養機能を発揮する。しかし、馬渡谷町はメリットがないため、維持管理を続けさせるのは理不尽と言わなければならない。このため、天下溝（了徳寺池任溝）の維持管理は農業農村地域に残された新たな課題と考えている。

参考文献

1)兵庫県；兵庫のため池誌、2)原田正利；ワークショップ「ため池群の広域防災機能」、3)農村振興局長通達；土地改良施設の管理主体の選定指針について、4)建設省河川局水政課水利調整室；水利権実務一問一答、5)大橋欣治；水土の知 76(3)、6)藤井榮一；農地・水だより、兵庫県、Vol.3,2009、7)大西亮一；ARIC 情報 No.90

要旨

天下溝（了徳寺池任溝）の管理主体は受益者の高岡町であることを示した。もし、高岡町が天下溝（了徳寺池任溝）の維持管理を放棄することを認めるのであれば、非受益者である地元の馬渡谷町に維持管理を押し付けるのではなく、加西市や加東市及び兵庫県が維持管理を行う必要があることを明らかにした。